

愛媛大学大学院

人文社会科学研究科 人文社会科学専攻

研究を深める 知をつなぐ 新たな価値を地域に実装できる人材を育成する

博士後期課程

令和9年4月開設

愛媛大学大学院

人文社会科学研究科 人文社会科学専攻

博士後期課程

令和9年4月開設

募集対象 修士課程・博士前期課程修了者、社会人、留学生**入学時期** 4月入学、10月入学（主に社会人・留学生）**取得学位** 博士（学術）

愛媛大学大学院 人文社会科学研究科

E-mail: jinsha@stu.ehime-u.ac.jp

<https://graduate.ll.ehime-u.ac.jp/>

研究科 Web サイト・入試情報はここからご確認ください▶



あなたの研究を 地域の未来へ

あなたの研究を 社会を動かす力に





学位 博士（学術）

主な研究領域 史学、文学、言語学、法学、政治学、地域研究、経済学、経営学、情報倫理、ランドスケープ科学

担当教員など
詳しい情報は
こちらから



■ 人文社会科学研究所 人文社会科学専攻博士後期課程の5つの特徴

特徴1 総合知を生み出す

史学、文学、言語学、法学、政治学、地域研究、経済学、経営学、情報倫理、ランドスケープ科学など、異なる分野の知見を組み合わせながら、複雑な地域課題に挑戦します。



特徴2 理論と現場を往還する

フィールドワーク、PBL（課題解決型学習）、実証研究を通じて、地域社会の現場と向き合いながら研究を進めます。

特徴3 複数教員による指導

主指導教員と2人以上の副指導教員による指導教員グループ制を採用し、複数の教員が研究指導を行います。異なる専門分野の視点から助言を受けることで、研究の質と可能性を大きく広げます。

特徴4 働きながら学べる

夜間・休日対応、オンライン活用、長期履修制度など、社会人が仕事を継続しながら博士号取得を目指せる環境を整えています。



特徴5 留学生にも開かれた博士課程

10月入学制度、オンライン活用、動画コンテンツなどを活用し、留学生など多様な学生の学びを支援します。

■ 身につく3つの力

① 自律的探究力

問いを立て、研究を構想し、自らの力で探究を進め、新しい知を生み出す能力

高度な専門知識と研究方法を駆使し、新たな知を創造し発信する研究者としての基盤を養います

② 融合的構想力

高度な専門知と隣接・関連分野の知を結び付け、複雑な課題の本質を理解し、新しい価値を構想する能力

人口減少、DX、地域産業の変革、多文化共生など、複合的な地域課題に挑戦します

③ 共創的発信力

研究成果を社会へ発信し、多様な主体と協働しながら価値を創出する能力

自治体、企業、地域住民、NPO、国際機関などと協働し、持続可能な未来を共創します



■ 想定する入学者

修士課程からさらに探究を深化させたい留学生を含むアカデミア志向者、修士課程・博士前期課程修了者。

現職で培った知識・経験を基盤に、実務経験を専門領域の研究へ発展させたい社会人、土業等有資格者。

地方自治体等において地域や組織の課題に向き合い、学術的な理論と手法で政策形成や価値創出に取り組もうとしている実務者。

想定するモデルストーリー

CASE 01 修士論文を、博士研究へ
修士課程2年
修士論文で終わらせたくない
研究がある

私は博士前期課程で四国遍路と地域文化に関する研究に取り組んでいます。研究を進めるほど、新たな疑問や課題が見えてきました。博士後期課程では、専門分野をさらに深く探究し、歴史学や文化研究に加えて地域政策や観光、地域づくりの視点も取り入れながら研究を発展させます。研究成果を国内外へ発信できる研究者になることが私の目標です。

CASE 02 自治体職員として政策を創る
市役所職員
地域課題を経験だけではなく、
学術的に解決したい

人口減少や地域活性化の業務に携わる中で、『本当に効果のある政策とは何か』を客観的に考えたいと思うようになりました。博士後期課程では、行政の現場で直面している課題を研究テーマとして扱い、データ分析や調査研究を通じて政策提言へつなげます。仕事を続けながら研究を進められる点が大きな魅力です。

CASE 03 実務経験を、新たな価値創造へ
民間企業管理職
経験を理論化し、
次の事業を創りたい

企業で新規事業開発やDX推進に携わる中で、成功や失敗の経験をより体系的に整理し、学術的な知見として発展させたいと考えようになりました。博士後期課程では、経営学だけではなく、人文社会科学の幅広い知見を活用しながら、地域企業の持続的発展や組織変革について研究を進めます。研究成果を事業や地域社会へ還元できることに大きな魅力を感じています。

CASE 04 比較研究を、世界へ発信する
留学生
日本と母国の地域課題を
比較研究したい

私の母国でも人口流出や地域経済の停滞が課題になっています。博士後期課程では、日本の地域づくりや文化資源の活用について実践的に学びながら、自国との比較研究に取り組む予定です。研究成果を国際学会で発表し、将来は地域開発や高等教育の分野で活躍したいと考えています。

愛媛・四国地域では、少子高齢化・人口減少、DX・GXへの対応、社会インフラの更新・整備、地域産業の変革、文化資源の継承者不足、多文化共生など、単一分野の対応のみでは解決が困難な諸課題が同時に顕在化しています。さらに、社会経済活動が「機能的価値」から「意味的価値」を重視する方向にシフトし、社会が複雑化するなかで、広い視野、異質なものの理解、多面的な思考・判断を兼ね備えた人文・社会科学系の高度人材の重要性が高まっています。

このような背景のもと、本専攻では、史学、文学、言語学、法学、政治学、地域研究、経済学、経営学、情報倫理、ランドスケープ科学などの専門分野の深化と融合を通じて、既存の学問領域を超えた「総合知」を創出できる研究者はもちろん、新たな価値を創造し社会へ実装できる博士人材を育成します。本専攻が目指すのは、産学連携や付加価値の創造、自治体の公共政策立案・社会制度デザイン、地域文化資源の活用など、複雑な地域課題の本質を理解し、論理的・多角的・学際的な視点から課題解決を実践できる人材の育成です。さらには、「意味的価値」を社会に実装して課題を解決へと導き、多様な主体との対話を通じて持続可能な未来を共創し、地域社会へ還元できる人材の創出を目指しています。

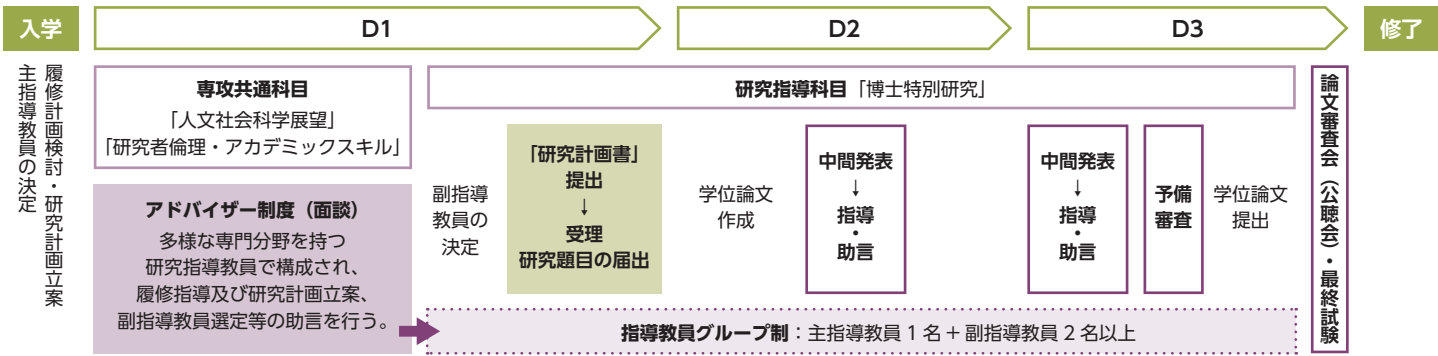
研究者を目指す方も、地域を変えたい方も、仕事の可能性を広げたい方も、地域と世界をつなぎたい方も、本専攻で専門性を深め、知を融合し、ともに未来を共創していきましょう！

あなたはどの未来を目指しますか？

愛媛大学大学院人文社会科学研究所人文社会科学専攻博士後期課程では、研究者はもちろん、多様な進路やキャリアを想定した学びを用意しています。



■ 博士後期課程修了までのカリキュラム



アドミッション・ポリシー

知識・理解・表現

博士前期課程（修士課程）修了相当の専門知識を有し、自律的な課題設定と方法論運用の素地、適切な表現力を備えている。

計画性・実効性

地域課題をはじめとする社会課題への関心をもち、現場の実情に即した独自性・妥当性・倫理適合性を備えた研究計画を提示することができる。

主体性・多様性・協働

多様な背景を尊重し、地域社会を含む学内外のステークホルダーと協働して学修を進め、研究成果を地域及び社会に還元する意欲を有している。

研究領域	職位	氏名	研究の キーワード	研究指導
史学・文学・ 言語学	教授	胡 光	日本近世史、 資料学、大名、 巡礼、祭礼、 地域社会	史学を対象として、高度な古文書読解力を修得し、古文書を解釈して歴史的事実を確定させた上で、近世近代社会を総合的・歴史的に思考・判断・分析できる能力を身につける。地域に関する研究対象として例えば近世に本格化する四国遍路があるが、先行研究を丁寧に追いつながりフィールドや様々な資料を基に総合的に分析するなど、現場・資料と理論を架橋する指導を行う。
	教授	中根 隆行	日本近現代 文学、文芸批評、 文化誌	日本近代文学を対象として、文化研究、比較文化研究を含めた文学研究の方法論について取り上げる。研究テーマにふさわしい一次資料や二次資料の探索・収集の手順、文献の読解、テキスト分析、論述方法など、研究計画や論文作成を見据えながら、日本近代文学に関する指導を行う。
	教授	今泉 志奈子	語彙意味論、 ことばと音楽	言語学の諸領域のなかで、特に、語彙意味論的アプローチを中心として、自然言語のしくみについて解明するための研究方法論についての指導を行う。言語事実の詳細な観察に基づき、ひとつの文法現象に対する複数のアプローチを比較検討しつつ、独創的な視点をもった論文作成のための指導を行う。
	教授	田中 尚子	中世文学、軍 記、学問・注 釈、和漢比較	軍記物語や抄物・注釈書などの中世の文学を中心に、日本の古典文学領域の諸相の探究にあたる。日本古典文学研究として取り組むのはもちろん、史学的アプローチ、他国の文学 1 作品との関係を考える比較文学的アプローチなど複数の手法を取り入れることで、多角的に捉えることのできる横断型研究を進めていく。すなわち、テキスト自体の丹念な読みとともに、テキストが成立した時代の思想・学問環境等の実態解明を目指した指導を行う。

	准教授	笹田 朋孝	アジア、比較考古学、無文字社会	日本を含むアジアを対象として、遺跡・遺物に基づき古代社会の形成過程、交流、資源利用と技術(生産)を解明する研究指導補助を行う。先行研究の批判的検討に加え、現地調査と資料分析を組み合わせ、博士論文の構想～執筆、学会発表・論文投稿までを支援する。必要に応じて関連する遺跡・博物館収蔵資料の現地見学を取り入れる。
	教授	高橋 千佳	第二言語習得理論、習得の個人差要因	第二言語習得領域における研究を行うための研究内容面・方法面についての指導を行う。第二言語習得のメカニズムや個人差要因にまつわる研究に関して、先行研究を適切にレビューし、自身の研究をデザインし、データ収集を行い、適切な方法で分析し、それを独創性の高い論文にまとめていけるよう指導を行う。
	准教授	太田 裕信	倫理学、行為論、宗教哲学	哲学・倫理学の論文を執筆するための研究方法論についての指導を行う。すなわち文献読解の方法、従来の先行研究との比較から自分の研究を位置付ける方法、自らの主張を説得的に明確に提示する方法に関する指導を行う。
法学・政治学・地域研究	教授	福井 秀樹	政治システム、公共政策、データ分析、R	データから信頼できる知見を引き出すために、特に因果関係をどう推定するかを学ぶ。因果関係を議論するには、どのような前提を置く必要があるのか、また、その前提のもとでどのような分析手法を選ぶべきかを整理する。とりわけ、実験ではなく既に集められた観察データを用いる場合に生じやすい問題に焦点をあて、考慮すべき事項を重点的に扱う。あわせて、Rを用いたコンピューター実習を行い、手法の考え方と使い方を体系的に理解することを目指した指導を行う。
	教授	鈴木 静	生活実態、権利救済、政策形成訴訟、社会保障法	法律学の観点から、当該分野の歴史的展開を踏まえつつ、現代における判例の検討および学説の整理を行う。さらに、国際的動向を視野に入れ、国内政策の展開についても取り上げ、総合的に検討する指導を行う。

	教授	石坂 晋哉	南アジア、脱植民地化、ガンディー	アジア地域研究に関して、歴史・思想・政治・経済・社会・文化などの各側面とその相互関係を総合的に理解するとともに、急速な経済発展やグローバル化、人口移動、宗教・民族問題、開発と環境、格差や社会的包摂といった現代アジアが直面する諸課題を踏まえて、各自の研究テーマを追究し、論文作成するための研究指導を行う。
	教授	井口 秀作	憲法、統治機構、憲法変動	規範と社会の相互関係を分析・検討する理論的な枠組を構築するために、「憲法変動」とよばれる現象を理論的に検討していく。分析対象としては、「憲法変遷」と指摘される日本の事象だけではなく、「憲法革命」とよばれるニューディール期のアメリカの政治現実や「憲法慣習」とよばれるフランスの憲法運用も取り上げるための指導を行う。
	教授	梶原 克彦	少数民族、移民、外国人労働者	史料に基づいて実証的に明らかにする手法と同時に、明らかになった事実を分析概念を用いて比較・一般化に向けた政治史の研究手法の指導を行う。とくに外国語文献の講読と手書き史料の判読訓練を行い、文献・資料読解能力のさらなる向上を図る。また史料調査方法について、そして調査を通じて得られた史料を論文にまとめるための指導を行う。
	教授	三上 了	政治学方法論、比較政治学、計量政治学、混合研究方法	暴力的紛争や感染症の封じ込め、あるいは自由貿易や脱炭素化の実現など、国際的な協力が必要な分野において、国際機関、国家、その他さまざまなレベルの行為主体がとるアクションの実態、起源、影響などを明らかにする上で、適切なリサーチ・クエスチョン、仮説、検証方法、データ測定方法に関する計画を立てられるような指導を行う。
	教授	太田 響子	行政、地方自治、公共政策、危機管理	行政学および地方自治論の理論と方法を踏まえ、地方自治体を含む行政組織の構造や政策形成過程に着目した実証研究を中心とした研究課題の設定を行う。制度分析や政策過程分析、主に質的手法による研究設計を指導するとともに、必要に応じて自治体等での現地調査やフィールドワークも行い、博士論文の作成に向けた指導を行う。

経営学・ 情報倫理	教授	岡本 隆	情報産業、ネットワーク経済、eビジネス	経済・経営の観点から、情報通信技術が経済、企業経営、地域社会、日常生活、国際化に与えた影響を取り上げる。理論研究を深めながら、地域課題と関係する対象を、データ分析や現地調査あるいはフィールドワークを取り入れることで、理論と現場の往還を行い、国内外の比較も取り入れながら、総合的に検討する指導を行う。
	教授	折戸 洋子	ビジネス情報倫理学、経営情報論、情報システム	ビジネス情報倫理の観点から、個人情報管理、プラットフォームビジネスといった現代的な情報管理上の諸課題の研究動向とその論点について取り上げる。具体的には、技術の進展に伴う、「ポリシーの真空状態」や「概念の混乱」といった情報倫理学における基本懸念、および様々な組織での情報管理システムやポリシーメーカーキングについての指導を行う。
	教授	崔 英靖	経営戦略、経営組織、情報化	経営戦略・組織の観点からの理論研究と実際の企業事例の分析を通じて、仮説の導出・検証や理論的説明・実践的提言を行うための能力の修得を目的とした指導を行う。
	教授	曾我 亘由	市場メカニズム、市場の失敗、情報の非対称性、インセンティブ	ミクロ経済学的観点に立った、理論と実証、インタビュー調査などの現地における調査も取り入れながら、地域の課題解決に資する研究を行い、加えて行動経済学の知見も活用しながら、学位論文を完成させる指導を行う。
ランドスケープ科学	准教授	RUPPRECHT CHRISTOPH DAVID DIETFRIED	持続可能性、人と自然の関係、マルチスピーシーズ	人間の幸福は、環境や他の生き物に全面的に依存している。このことをふまえ、共生共栄の未来のビジョンとその実現方法を幅広く模索することを目的とする。マルチスピーシーズ、持続可能性の理論、ランドスケープと都市の緑地・空地・農地、環境正義や脱成長等のテーマについて、フィールドワークや社会科学の基本的な方法に加えゲーム・アート・フィクションなどの超学際的手法を用いて指導を行う。

	准教授	入江 賀子	農村サステナビリティプロジェクト、便益・費用分析、社会影響評価、統計分析	脱炭素プロジェクト、特に再生可能エネルギー、生物資源利用などをリアルに実装する際に必要なステークホルダーとの討議による課題解決のあり方を取り上げる。また、実践的なデータ分析力を身につけることを目指し、計量経済学などのデータサイエンスの手法の指導を行う。
	准教授	山本 直史	身体活動、ヘルスプロモーション、疫学的研究手法	政策・環境・社会・心理などの複雑な要因が絡み合う身体活動を中心とした健康行動について、個人レベルから集団レベルまでの変容を対象に、健康・スポーツ科学、行動科学および疫学の視点から指導を行う。